

令和7年度 指定管理者制度導入施設の管理運営状況について

港湾振興課

1 施設の概要等

施設名	福山地域マリーナ施設		
所在地	福山市新涯町二丁目23-1等2地区		
設置目的	プレジャーボートの適正な係留保管の促進		
施設・設備	山根木材ポートパーク福山（以下「BP福山」という）（海上艇置施設、駐車場、トイレ・多目的トイレ）、柳津プレジャーボートスポット（以下「柳津PBS」という。）（海上艇置施設、駐車場）		
指定管理者	1期目	H28.4.1～R8.3.31	福山地域ボートパーク運営共同企業体
		H26.4.1～H28.3.31	BP福山：シダックス大新東ヒューマンサービス・ベルボート共同企業体 柳津PBS：株ひろしま港湾管理センター

2 施設利用状況

利用状況	年度		収容可能艇数	目標値 [事業計画]	艇置数	対前年度増減	対目標値増減 (達成率)
	1期	R7		493艇	439艇	404艇	△20艇
R6			493艇	445艇	424艇	7艇	△21艇(95.3%)
R5			493艇	445艇	417艇	△15艇	△28艇(93.7%)
R4			493艇	435艇	432艇	23艇	△3艇(99.3%)
H28～R3平均			493艇	416艇	409艇	23艇	△7艇(98.3%)
H26～H27平均※			493艇	302艇	386艇	—	84艇(127.8%)
増減理由	利用者の高齢化や維持経費の負担増に伴う退艇数増						

※平成26～27年度の平均は、ボートパーク福山と広島港及び尾道糸崎港における小型船舶特定係留施設に含まれていた当該施設の一部である柳津PBSに係るものを合算したものである。

3 利用者ニーズの把握と対応

調査実施内容	<b>【実施方法】</b>	<b>【対象・人数】</b>
	利用者意見箱の設置	利用者全員・6名(のべ数)
	1日2回以上の栈橋巡回	利用者全員・110名(のべ数)
	ホームページ質問欄	利用者全員及び一般市民・9名
	<b>【主な意見】</b>	<b>【その対応状況】</b>
	栈橋や係留設備の老朽化が進んでおり、破損箇所の修繕を進めてほしい。(柳津PBS)	安全確保を最優先に、対応可能な範囲で補修を実施するとともに、根本的な修繕の必要性について県と協議を進めている。対応可能な修繕に努める。
遠い区画の利用が不便に感じるので、第2ゲート側にも駐車場がほしい。(BP福山)	県と連携して対応を検討する。	
ビジターバースの整備や大型艇の係留場所をつくってほしい。(BP福山)	利用者ニーズを踏まえ、県と連携して対応を検討する。	

4 県の業務点検等の状況

項目	実績	備考
報告書	年度	○ 事業報告書
	月報	○ 入艇状況報告等
	日報(必要随時)	○ 日報の中の主要な苦情、要望等について随時報告
管理運営会議(随時)	<b>【特記事項等】</b>	
現地調査	現地調査を実施した。	
	<b>【指定管理者の意見】</b> 事業実施計画に基づき適切に実施した。	
	<b>【県の対応】</b> 適切に管理運営が実施されていることを確認した。	

5 県委託料の状況

(単位：千円)

	年度		金額	対前年度増減		年度		金額	対前年度増減
県委託料 (決算額)	1期	R7	0	0	料金 収入 (決算額)	1期	R7	55,586	△476
		R6	0	0			R6	56,062	△633
		R5	0	0			R5	56,695	△188
		R4	0	0			R4	56,883	3,795
		H28～R3 平均	0	△30,125			H28～R3 平均	53,088	53,088
	H26～H27(平均)※	30,125	—	H26～H27(平均)※		—	—		

※平成26～27年度の平均は、B P福山と広島港及び尾道糸崎港における小型船舶特定係留施設に含まれていた当該施設の一部である柳津PBSに係るものを合算したものである。

6 管理経費の状況

(単位：千円)

項目		R7 決算額	R6 決算額	前年度差	主な増減理由等	
委託事業	収入	県委託料	0	0	0	
		料金収入	55,586	56,062	△476	年度途中での解約等による減
		その他収入	43	11	32	
		計(A)	55,629	56,073	△444	
	支出	人件費	12,083	17,226	△5,143	正社員の退職による減
		光熱水費	875	786	89	
		設備等保守点検費	3,824	1,527	2,297	10年に1回の設備点検による増
		清掃・警備費等	560	691	△131	カメラリース契約の見直しによる減
		施設維持修繕費	2,007	886	1,121	経年劣化による設備補修工事の増
		事務局費	12,254	11,967	287	支払手数料、通信費の増
その他		5,565	6,117	△552	旅費交通費の減	
計(B)	37,168	39,200	△2,032			
収支①(A-B)		18,461	16,873	1,588		
自主事業 (※2)	収入(C)	1,165	1,441	△276	自販機、船舶用品、募集手数料等の減	
	支出(D)	271	302	△31		
	収支②(C-D)	894	1,139	△245		
合計収支(①+②)		19,355	18,012	1,343	(うち県への納付額13,490千円)(R7)※3	

※1 利用料金制：公の施設の使用料について、指定管理者が直接使用料等を収入することができる制度。  
指定管理者の自主的な経営努力を発揮しやすくする効果が期待され、地方公共団体及び指定管理者の会計事務の効率化が図られる。

※2 自主事業：指定管理者が自らの責任で、更なる施設サービスの向上のために提案・実施する事業

※3 資本費相当額：県が負担した施設の整備費を収益から負担金として納付されている。

## 7 管理運営状況

項目		指定管理者 (事業計画、主な取組、新たな取組など)	県の評価
施設の効用発揮	○施設の設置目的に沿った業務実績	近隣船舶業者等と連携し、施設パンフレットの配布や紹介制度の活用により、新規入艇の促進に努めた。 相談対応や情報提供により、既存利用者の継続利用に努めた。	近隣船舶業者等と連携した新規入艇の促進は、地域における放置艇の削減・新規発生の防止に資するものであり、施設の設置目的に沿った業務が実施されている。
	○業務の実施による、県民サービスの向上	施設の長寿命化に向けた係船ビームのフロートの交換等の計画的な維持管理を推進した。 浮棧橋の詳細点検を通じて、修繕の必要性と優先順位を整理し、県と連携して必要な箇所の修繕工事を実施した。	県と連携して、施設の安全性、利便性の確保に努めている。
	○業務の実施による、施設の利用促進	施設の景観及び利用者満足度を維持するため、駐車場やトイレ及び棧橋の清掃作業に注力した。	
管理の人的物的基礎	○組織体制の見直し	窓口業務は、年末年始と火曜日を除く週6日営業とし、基本的に全ての営業日に正社員2名以上を配置し、利用者へのサービスを迅速・正確・丁寧に行った。	施設の維持管理や安全性の確保、利用者からの要望に応えるため、組織体制が十分整えられている。
	○効率的な業務運営	朝夕2回の棧橋巡回に十分な時間をかけることにより、船舶係留の状況確認や施設の不具合箇所の早期発見につなげた。	
	○収支の適正	保有するノウハウを活用し、対応可能な修繕については、極力自社で実施し、外部委託費の抑制と修繕への即応性の確保に努めた。	
総括		令和7年度も大きな苦情はなく、日々の交流を通じて、利用者や地域住民との信頼関係を維持・強化することができた。 引き続き地域に根差した施設として、利用者の声に寄り添いながら、より満足度の高い管理・運営を目指して取り組んでいきたい。	新規入艇の促進や施設の維持管理、利用者からの要望等への対応等について真摯に取り組まれている。 利用者だけでなく地域住民とも良好な信頼関係を構築・維持することができるよう、日々の管理運営に取り組まれている。

## 8 今後の方向性（課題と対応）

項目	指定管理者	県
短期的な対応 (令和8年度)	○ 日常点検の実施や県と連携した施設の修繕 ○ 相談対応等を通じた利用者との良好な関係の構築 ○ B P福山における駐車場内に放置される車両への対応	指定管理者が実施する施設のPRや利用者サービスの向上、利用促進の取組について、支援・助言を行うとともに、令和3年度から導入したネーミングライツ事業を活用して、更なる施設の充実に努める。
中期的な対応	○ 計画的な施設の維持修繕 ○ 老朽化施設の大規模修繕・更新の検討 ○ 新規利用者の獲得に向けた若年層へのアプローチ ○ 継続利用に向けた既存利用者への支援や情報提供 ○ ビジターバースの整備に向けた対応検討	施設利用者の利便性向上や新たな利用者の獲得のために、必要な施設の修繕や更新等について、指定管理者と連携して取り組む。